

トラック、バス

ディーゼル重量車の燃費表示が新しくなります。

重量車モード燃費



JH25モード

重量車の新しい燃費試験法が導入されることとなりました。
より実態に近い車両の燃費値を知っていただくことができます。



適用される対象は？

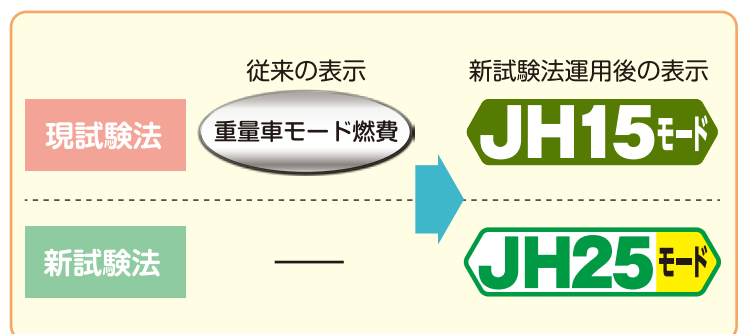
- ディーゼルエンジンを搭載する車両総重量3.5トン超のトラック・トラクタ・バスが対象です。

主な変更内容は？

- 車両の空気抵抗やタイヤのころがり抵抗について、従来の試験法では固定値を用いていましたが、新しい試験法では、実測値を用いて燃費値を算出することになりました。
- 試験で用いる「都市内走行」と「都市間走行」の走行比率について、新しい試験法では、走行実態の調査結果を反映した比率になりました。

表示方法は？

- 従来の「重量車モード燃費」から表示が変わります。新しい試験法は「**JH25モード**」、従来の試験法は「**JH15モード**」と表示します。



運用開始時期

- 2019年以降、新試験法での燃費が取得可能となっています。

Q&A

Q1：新試験法で燃費の表示値はどう変わりますか？

A1：より実態に近い燃費値が表示されることとなります。各車両の性能によって、従来より燃費値が増加する場合と減少する場合があります。

Q2：「JH15試験法」による燃費値を取得した車両と「JH25試験法」による燃費値を取得した車両の両方が存在する場合、どのように表示内容を比較すればよいですか？

A2：同じ試験方法で測定した燃費値で比較してください。従来表示していた「重量車モード燃費値」と「JH15試験法」の燃費値は同じ試験法ですので直接比較が可能です。

Q3：空気抵抗計測を行う時の、荷箱の架装条件は？

A3：多く使用されている平ボディを基本としていますが、トラックの区分11（車両総重量20トン超）のみ、実態に合わせ全高3.8mのバン（箱型荷箱）を架装条件として計測しています。

注意事項

- 1) 表示された燃費は、定められた条件のもとで試験した結果により算定されたものです。
- 2) 実際の燃費はお客様の荷箱架装の種類や積載量、使用環境（道路勾配、気象、渋滞等）・運転方法（急発進、エアコンの使用等）に応じて異なります。

（参考）新たな重量車燃費基準

- エネルギーの使用の合理化等に関する法律（省エネ法）に基づき、トップランナー方式により設定される、製造事業者等が達成すべき重量車の燃費について、JH25試験法による新たな燃費基準（2025年度目標）が設定されました。

トラック（トラクタ以外）



区分	車両総重量範囲	最大積載量範囲	目標基準値 (km/L)
1	3.5t 超 ~ 7.5t 以下	~ 1.5t 以下	13.45
2		1.5t 超 ~ 2t 以下	11.93
3		2t 超 ~ 3t 以下	10.59
4		3t 超 ~	9.91
5	7.5t 超 ~ 8t 以下		8.39
6	8t 超 ~ 10t 以下		7.46
7	10t 超 ~ 12t 以下		7.44
8	12t 超 ~ 14t 以下		6.42
9	14t 超 ~ 16t 以下		5.89
10	16t 超 ~ 20t 以下		4.88
11	20t 超 ~		4.42

トラクタ



区分	車両総重量範囲	目標基準値 (km/L)
1	~ 20t 以下	3.11
2	20t 超 ~	2.32

路線バス^{※注}



区分	車両総重量範囲	目標基準値 (km/L)
1	3.5t 超 ~ 8t 以下	7.15
2	8t 超 ~ 10t 以下	6.30
3	10t 超 ~ 12t 以下	5.80
4	12t 超 ~ 14t 以下	5.27
5	14t 超 ~	4.52

一般バス^{※注}



区分	車両総重量範囲	目標基準値 (km/L)
1	3.5t 超 ~ 6t 以下	9.54
2	6t 超 ~ 8t 以下	7.73
3	8t 超 ~ 10t 以下	6.37
4	10t 超 ~ 12t 以下	6.06
5	12t 超 ~ 14t 以下	5.29
6	14t 超 ~ 16t 以下	5.28
7	16t 超 ~	5.14

※注）路線と一般の違いは、客席シートベルト無し・有りで区別。